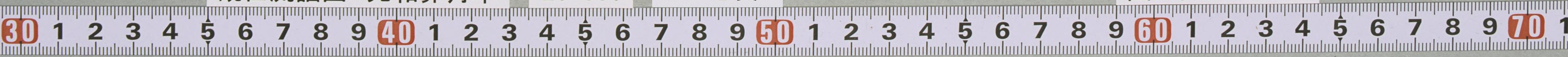


観世流謡曲 元和卯月本

25-001

25 志賀

国立国会図書館



道^{みち}あり^{あり}清^{きよ}代^{しろ}乃^の花^{はな}見^みつ^つき^きく^く都^{みやこ}
の^の山^{やま}の^のこ^こき^きた^た ^{ハナ}松^{まつ}是^{こゝ}ハ^ハ當^{あた}今^{いま}小^こ
仕^{つか}入^いる^る家^け長^{なが}下^{した}也^{なり}板^{いた}も^も江^え別^{べつ}志^し賀^が乃^の山^{やま}
あ^あら^らら^らと^とも^も感^{かん}あ^ある^るう^う一^{いっ}巻^{まき}又^{また}一^{いっ}巻^{まき}子^こ
頃^{ころ}今^{いま}志^し賀^が乃^の山^{やま}路^ぢへ^へと^とう^うき^き作^{つく}
ま^まら^らせ^せた^たあ^あら^らく^く雲^{くも}の^の影^{かげ}ほ^ほら^らき^きく^く
長^{なが}閑^{かん}き^き乃^の音^ね羽^は山^{やま}を^をあ^あら^らせ^せく^くれ^れハ



しんごうがよわきり山さや
湖をまありめりれはまは急作

海とに江別志賀の山よきそん

増く此河よふわして花をありめり

まゐりそん一せいではわきりの都の

名をこりて昔あうり山桜

ちあよあわや心あまじりも情

の残るそめ山路よ日多ぬ垂て

牧笛の音人回萬りの様くの世を

わらわゆえりり様おとよらぬ

まゐり眼の前をりめ影をやをさる

らぬあまわよ山をまきく来く

手あふれを立ぬる入つあやも

きりゆりく音雨とみ見

あそ松のつゆもあはるあや
まはて幸目の寄るわいもい後
や乃によきしわくわき
やあ是成山賤さうれい重るま
薪よあを花乃枝を打うあよ
可も華乃儀ありきこあわ
やあそり乃薪乃花もらよ休みり

^三信長し常乃わぬまの薪を
お家事道乃包あたまのあくら
打うく^日薪や花も起ま乃山と
奇人もあ不審有しう包今更
竹とかたな^し又奥深寺
山路あはれ松も松原も多き
あそ花乃りるあよあそ

思ふにさきさきもよほる老ありあえ
和歌のうらみもよほ草ハナか
たよりなく世語なりハナたれも
是の御ハナ言ハナまもやうに
山がけのハナ言ハナまもやうに
まことゆく山女も人ごともの
思ふに花のほよき御言ハナさるや

今しも筆を執りて貫之ハナ言ハナ
紫のたまりもあつらひしハナの
道ハナもかやハナ支ハナかハナりハナ
こまきよき事ゆゑに正ハナ者ハナなり代ハナ
のつらしむるもあはれハナとあそ
萬機ハナりまほりもハナとほめぬハナ
あはれ具ハナらぬハナはたはそハナぢハナりハナ

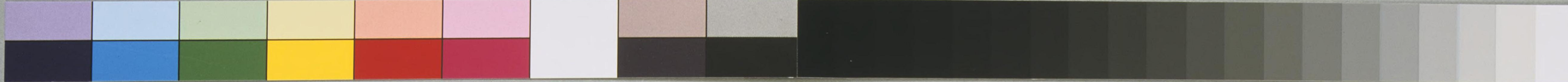
らうぶしうして古今の詠歌を撰ひ
日高の六年仙をさしめしめてその
糸のんごの世邊の音のりりり
あつちをちよきあつちの世の露乃
おしよきもやうな人のうらなは
あつちをちよきあつちの世の露乃
日とわらまての情とやうきもく

後以清浅音山乃がるり山
の井乃新さくはの思りまより
ゆるとも未家とさあわやと魚乃
志砂より枝をほまことの世の心
花乃色し音まてしむ妙女や敷鳴の
道ある所代りまてあるひとくれ
三十一文字の形も守護し給ひ

ぞ見頂相の女来も感應され給
包の君も安んじよ萬民とききた
のしるし都鄙同儀の書の一
田海、鴻乃ほりましても浪の聲
萬歳乃ちきまのちけりもわ
いゆるらうり代はらよよろつ
まのりもの道直よつるら

東南よ雲たさぬり西よ山
志乃のそとせりもあーら
りも花もときみの山松のちま
りもただの聲まそもそ和善の
詠よもくや天地をうら
鬼社も感あめとや 上五七九
よあるらかたらく家路





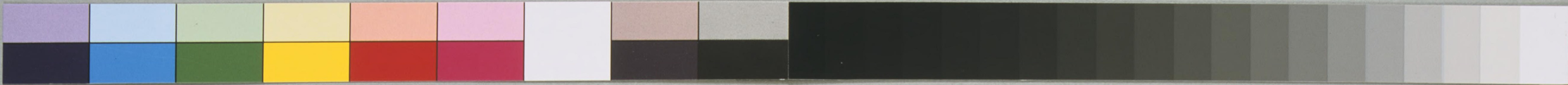
昔他和幣ハのハ家ハやハつハくハやハあハつハらハ
 らハあハらハどハ思ハはハさハしハくハれハんハもハ
 去ハらハくハらハちハるハ花ハのハまハのハまハをハ
 名ハつハつハらハあハ井ハのハ流ハ積ハのハりハなハ
 らハちハ梅ハ子ハをハさハらハちハてハ神ハのハまハをハ
 面ハ白ハきハるハあハそハりハれハくハ

らハまハあハらハしハらハちハのハあハりハ
 一ハ海ハをハ行ハきハらハしハらハちハのハまハをハ
 大ハ伴ハのハあハめハとハしハらハちハのハまハをハ
 らハしハ山ハのハ神ハもハもハらハちハのハまハをハ
他らハもハこハうハ山ハのハりハもハもハらハちハのハまハをハ
 叔ハとハわハほハもハらハちハのハまハをハ
 家ハのハあハのハ大ハ伴ハりハちハのハまハをハ



右百番由之申有象示直
傳石岡が左妻の音早句付
依波板起程心今清書
加奥少平

元和六年 観世左近大夫
卯月日 首宗三



観世流謡曲 元和卯月本

25-011

25 志賀

国立国会図書館

